四條畷学園短期大学

教学委員会

2025 年度　授業についての満足度調査

1. 調査目的　①学科の取組について評価する
②授業で身につけるべき能力(学修成果)について評価する
③学生自身の授業への取組みについて評価する
④学修成果がどの程度身についたか評価する

以上の①～④から、学生の授業への満足度を調査することにより、個々の項目を精査し翌年度の授業改善の一助とする。

2. 実施期間　2026 年 3 月上旬～2026 年 3 月中旬

3. 調査回答者数　保育学科回収率　1 年生 43.2%（19 人）
2 年生 96.6%（57 人）
ライフデザイン総合学科回収率
1 年生 80.4%（37 人）
2 年生 88.1%（37 人）

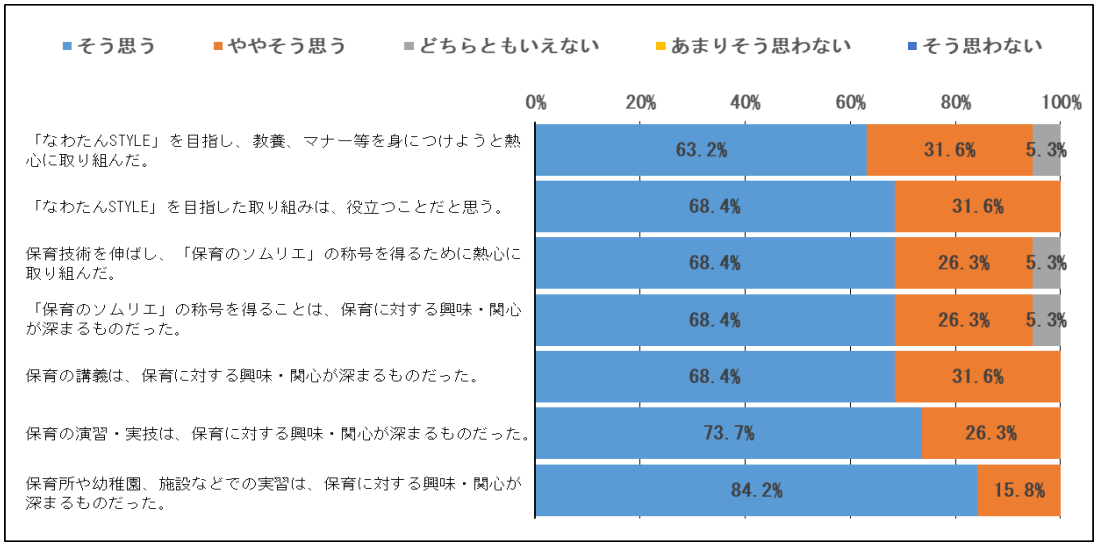
4. 調査方法　無記名のアンケート用紙及び Google フォームで実施し、回収、集計等は教学委員が担当。

5. 結果のデータ処理　両学科それぞれの教育内容を意識した質問項目を設定している。
ライフデザイン総合学科設問項目 I 以外では、
“そう思う～そう思わない”の 5 段階評価としてグラフ化した。

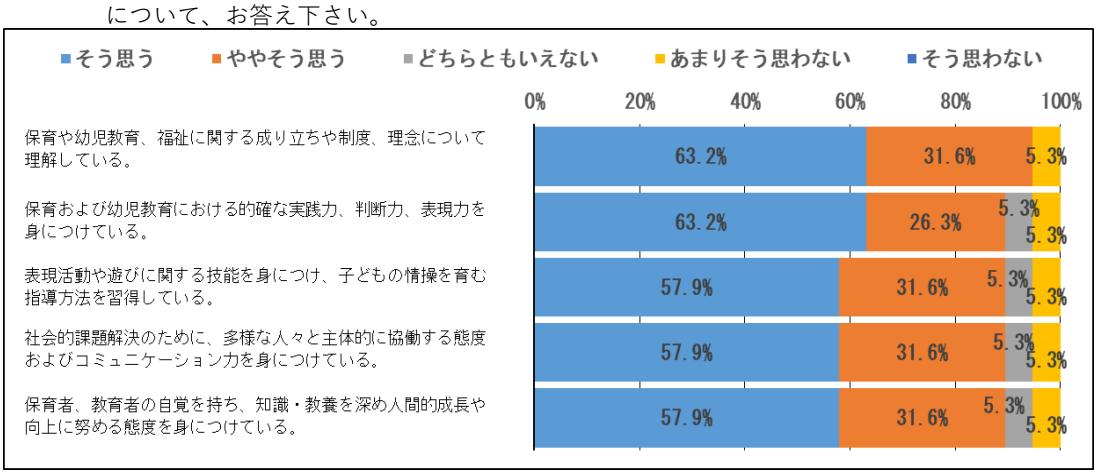
2025年度　保育学科　１年生

回答率　43.2%

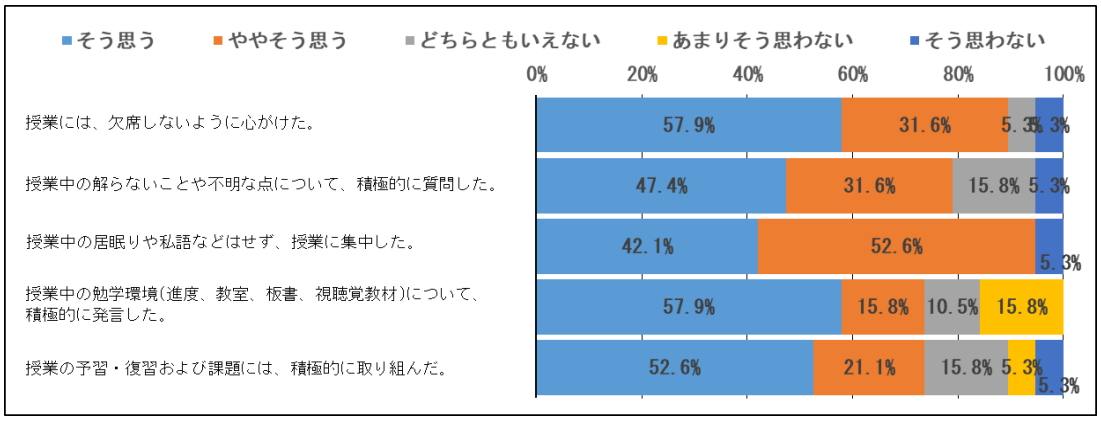
設問Ⅰ　保育学科に関する各項目について、お答え下さい。



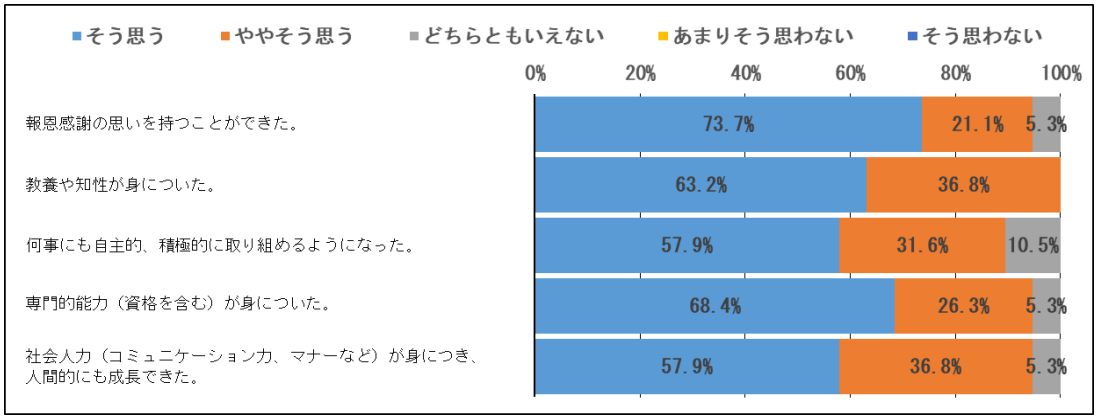
設問Ⅱ　保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について、お答え下さい。



設問Ⅲ　あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



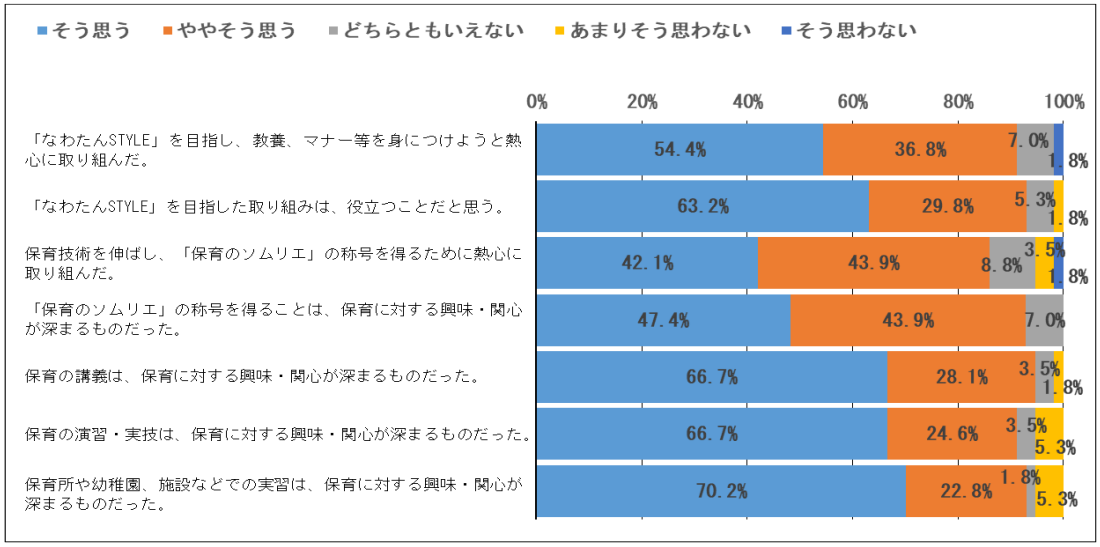
設問Ⅳ　あなたの本学での２（１）年間における学修成果について、お答えください。



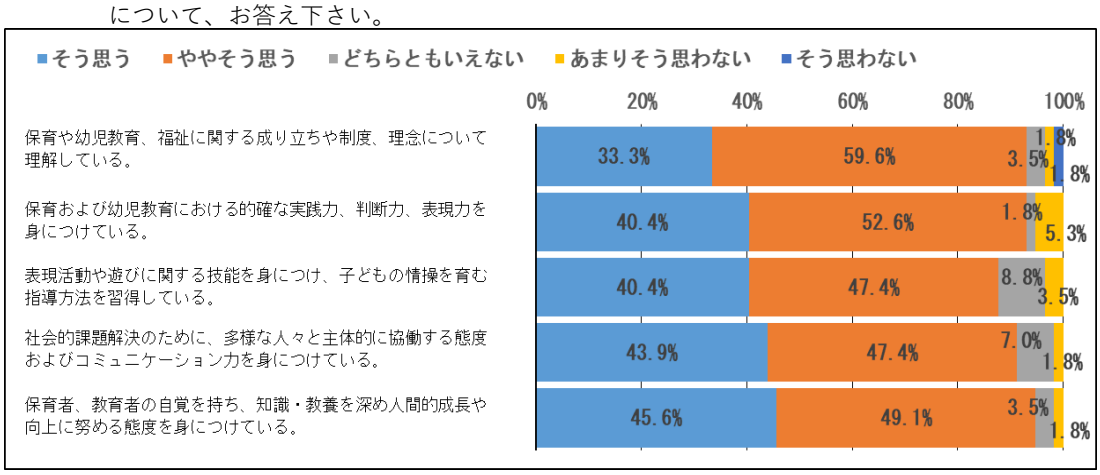
2025年度　保育学科　２年生

回答率　96.6%

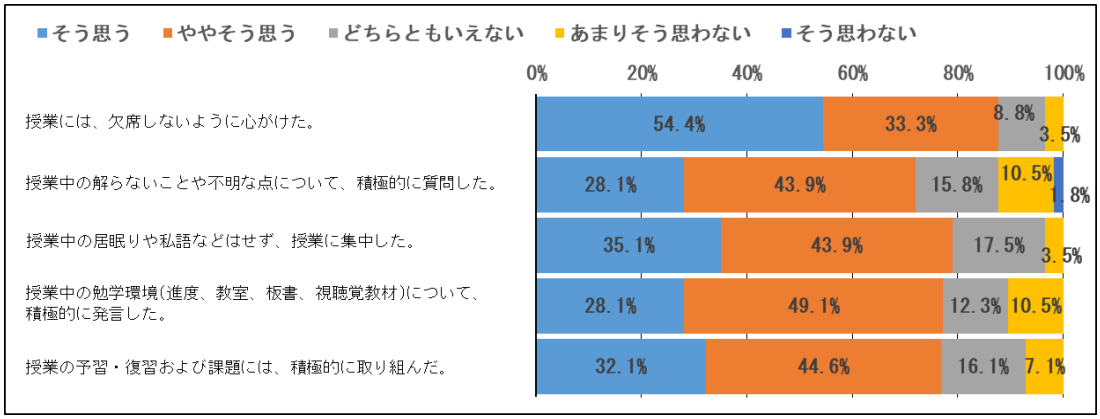
設問Ⅰ　保育学科に関する各項目について、お答え下さい。



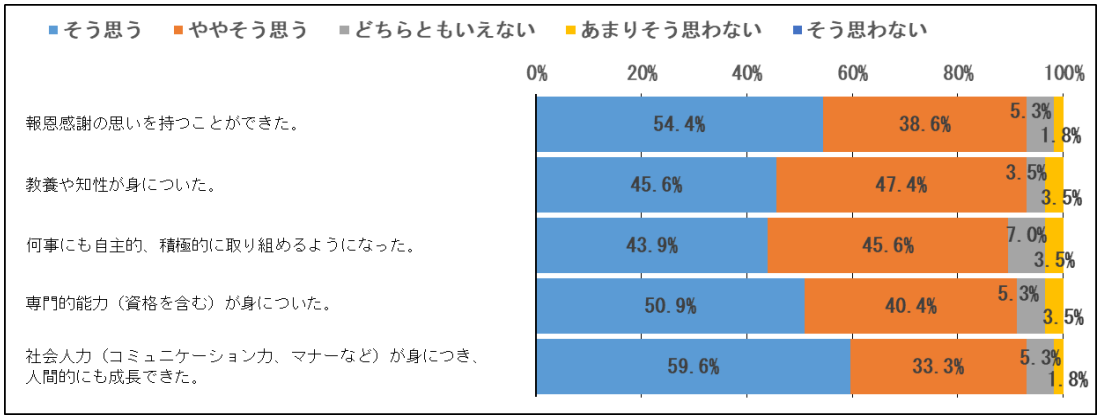
設問Ⅱ　保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について、お答え下さい。



設問Ⅲ　あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



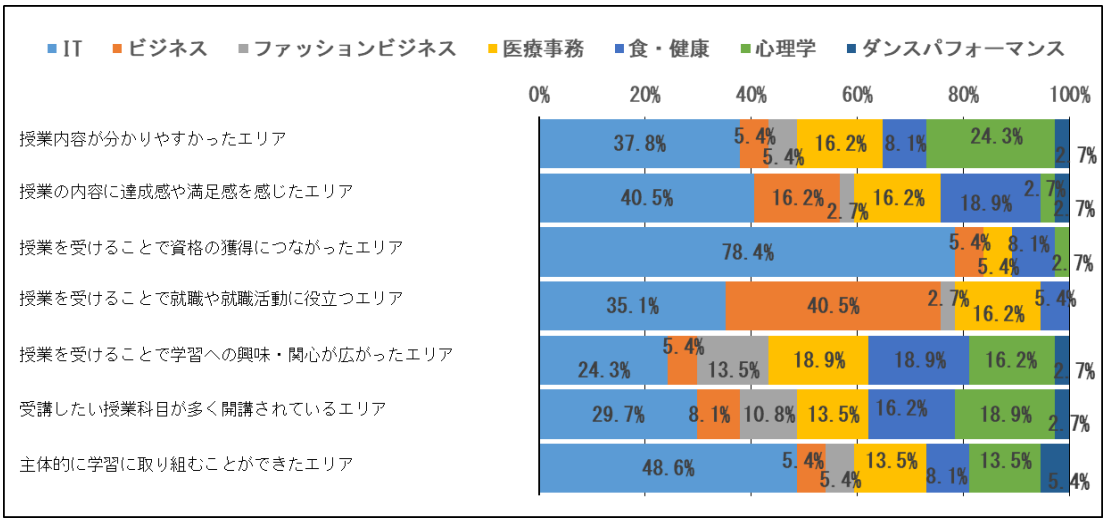
設問Ⅳ　あなたの本学での２（１）年間における学修成果について、お答えください。



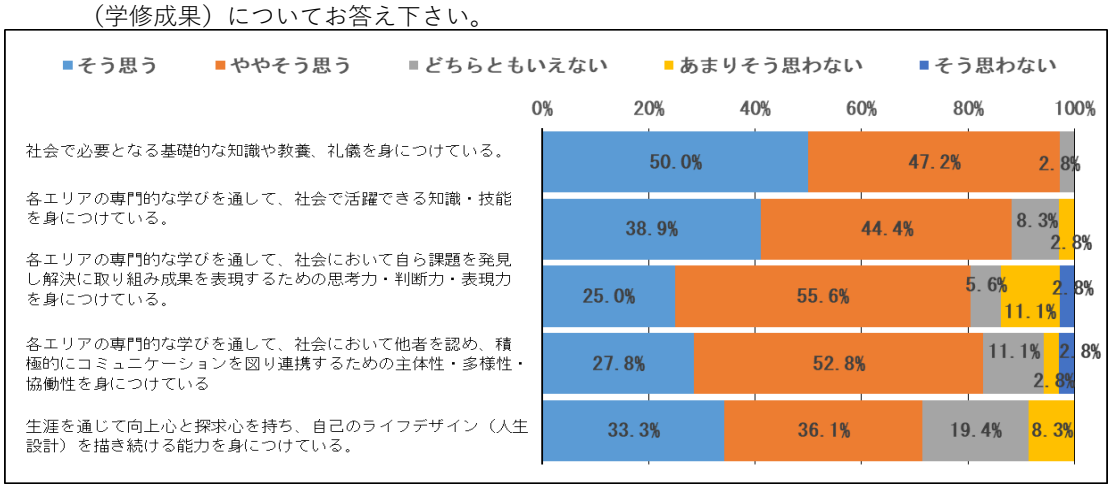
2025年度　ライフデザイン総合学科学科　１年生

回答率　80.4%

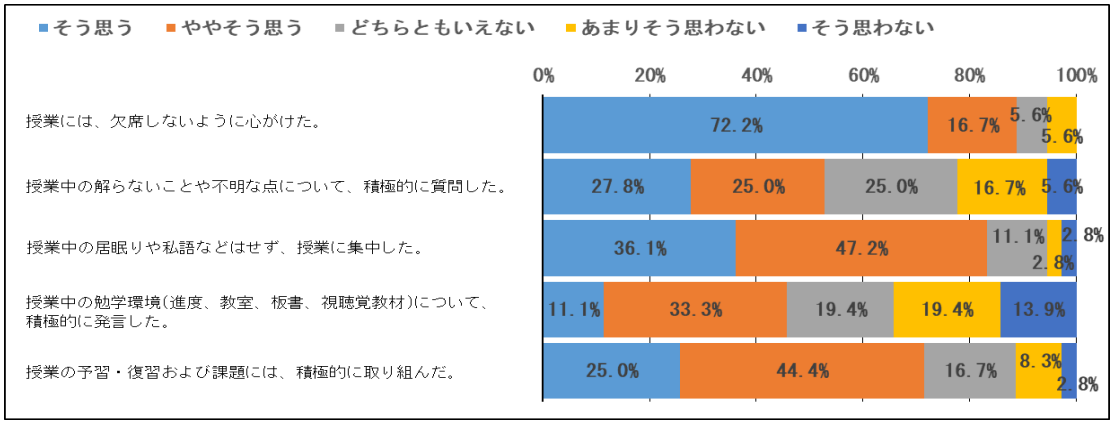
設問Ⅰ　ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。



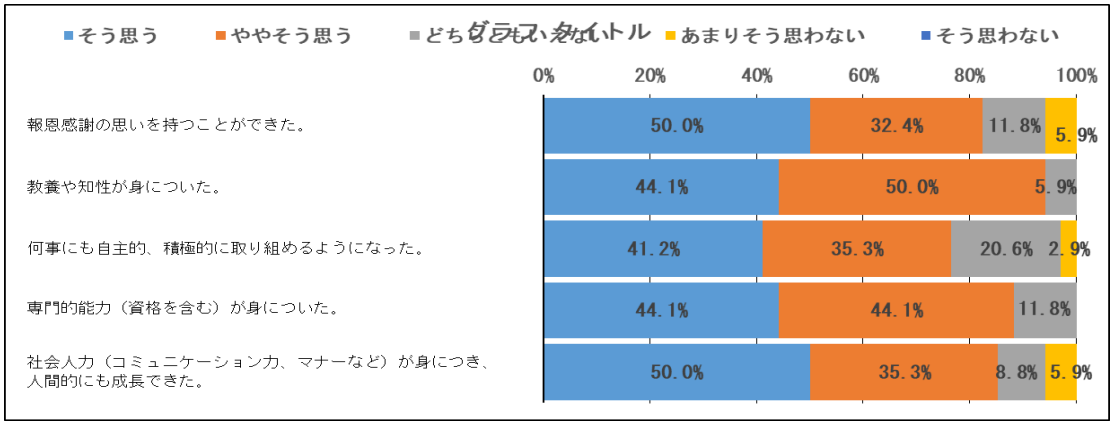
設問Ⅱ　ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）についてお答え下さい。



設問Ⅲ　あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



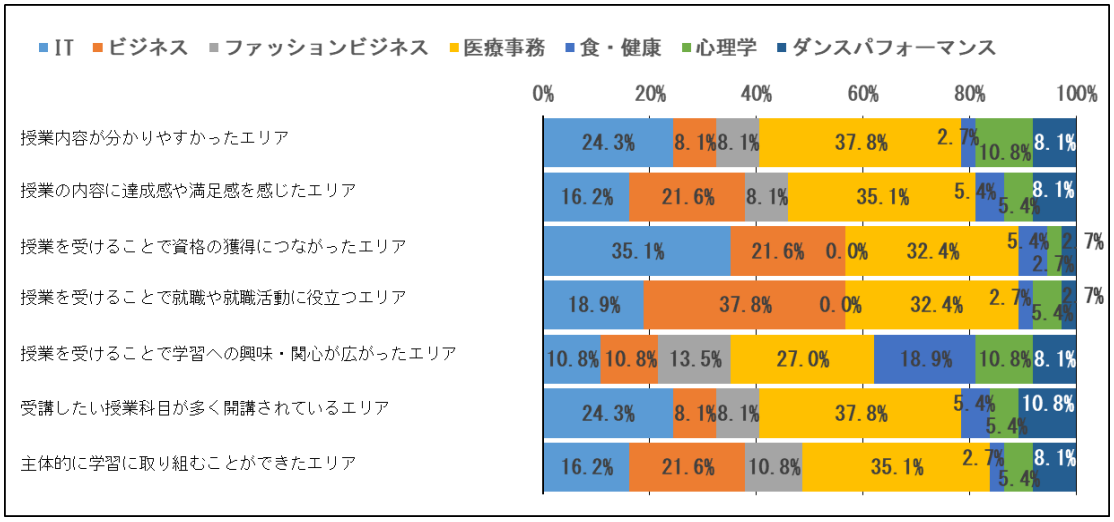
設問Ⅳ　あなたの本学での２（１）年間における学修成果について、お答えください。



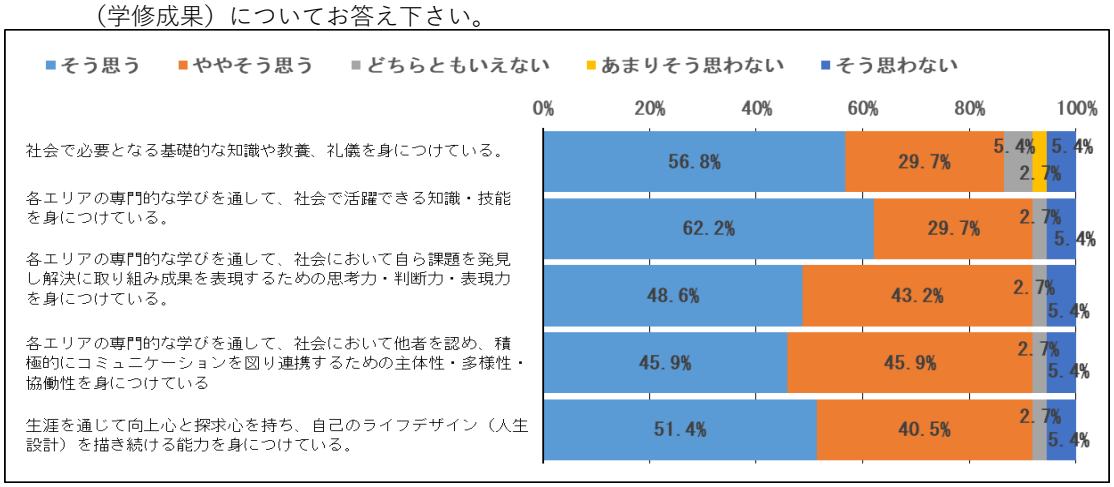
2025年度　ライフデザイン総合学科学科　２年生

回答率　88.1%

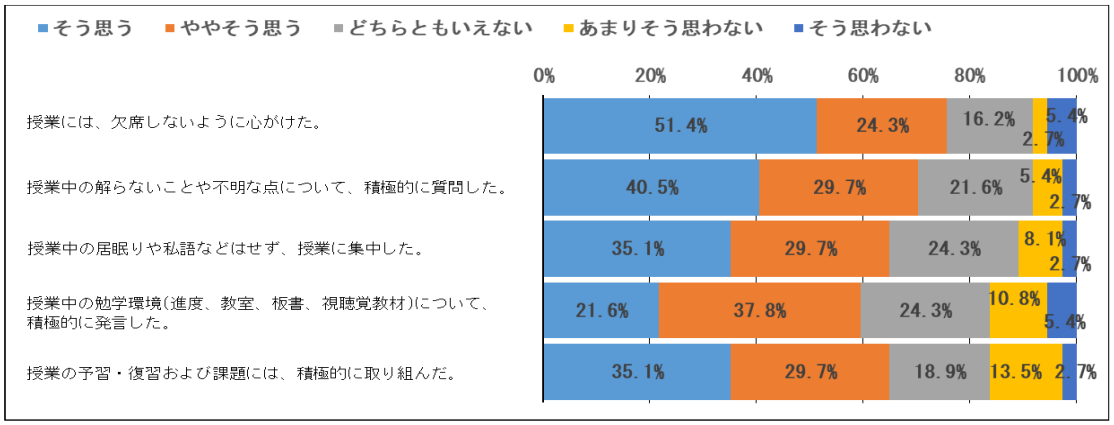
設問Ⅰ　ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。



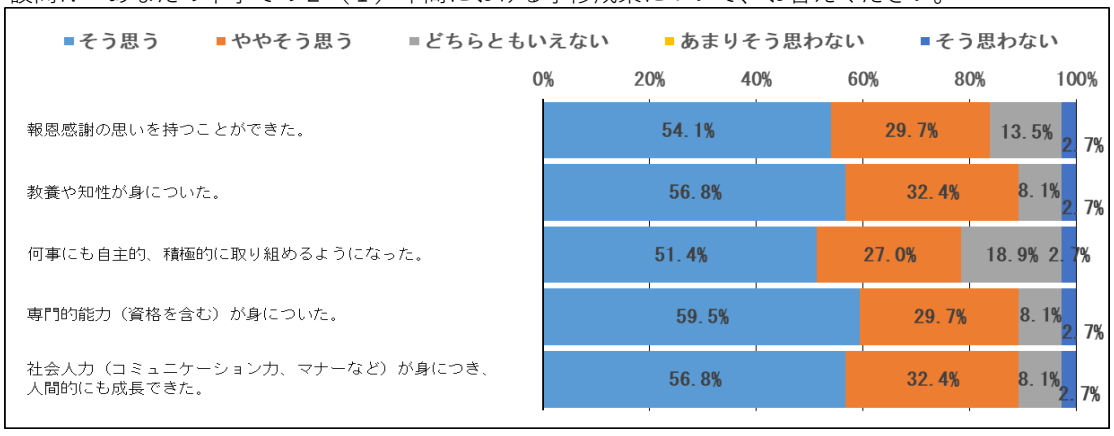
設問Ⅱ　ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）についてお答え下さい。



設問Ⅲ　あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



設問Ⅳ　あなたの本学での２（１）年間における学修成果について、お答えください。



2025 年度　授業についての満足度調査

保育学科調査結果コメント　（学科長：工藤真由美）

設問Ⅰ　保育学科に関する項目について

本学では、教養、マナー、言葉遣い、挨拶などのできる保育者の育成として「なわたん STYLE」を掲げている。「なわたん STYLE」を目指し、「教養」や「マナー」等を「身に付けようと」取り組んだかどうかの設問に「そう思う」及び「ややそう思う」と回答したのが 1 年生 94.8%、2 年生 91.2%であった。「なわたん STYLE」の取り組みが「役立つ」かどうかの問いに対して、1 年生で 100%､2 年生で 93%が「そう思う」及び「ややそう思う」を選択しており、学生の多くがその必要性を認識し、保育者として身に付けたいという希望が伺える。さらにその必要性を継続的に意識させる仕掛けが、「なわたん STYLE」ノートである。このノートは年間通じて各自で記入しており、各学期末に担任が一人ひとりに対してコメントを記入して返却し、自己の成長の跡を振り返るようにしている。このような地道な作業も「なわたん STYLE」の定着に寄与している。

次に「保育のソムリエ」の取り組みである。本学が設定している独自の「保育のソムリエ」称号を得るために取り組んだかどうかの問いに対して、1 年生は 94.7%、2 年生の 86%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答しており、熱心に取り組んでいることがわかる。例年 2 年生は 1 年生に比べて、数字が下がる傾向がある。就職活動などで忙しくなるからであるが、今年度はそれでも高い数字を維持できていることは大変すばらしい。就職後にも役立つ「保育のソムリエ」に引き続き取り組んでもらえるよう教員もさらに工夫していくことが必要である。「保育のソムリエ」への取り組みが保育に対する興味や関心を深めたかどうかの問いについては 1 年生で 94.7%、2 年生が 91.3%となっている。「保育のソムリエ」称号を得るためだけでなく、保育者として必要となる保育技術につながる「絵本ソムリエ」、「工作ソムリエ」、「手遊びソムリエ」、「伝承ソムリエ」の 4 つの技術（引き出し）を身に付けたいという高いモチベーションが 2 年間維持されていることがうかがえる。昨年度から導入した保育のソムリエを披露する場として、学祭での「なわたんグランプリ」も、学びのモチベーションに役立っているとも考えられる。今後とも実践する場も確保しながらモチベーション維持に努めたい。

「なわたん STYLE」、「保育のソムリエ」は本学独自の取り組みである。引き続き、次年度以降も保育者としてのモデルとなる「なわたん STYLE」、保育者の技術向上のための「保育のソムリエ」を拡充していきたい。

学習形態に関しての設問は、「講義」「演習実技」「実習」それぞれ、1･2 年生共に高い数値を示している。「講義」に関して 1 年生は 100%、2 年生は 94.8%が、「演習実技」に関しては、1 年生は 100%、2 年生は 91.3%、「実習」に関しては、1 年生は 100%、2 年生は 93%の学生が保育に対する興味や関心が高まるかどうかの問いに「そう思う」及び「ややそう思う」と回答している。「講義「演習実技」「実習」すべてにおいて両学年共に 9 割を超えている。従来は「実習」が学内学習よりも高い数値を示していたが、座学においても、高い数字を示したことは、現場で役立つ内容、実践的な視点を取り入れた内容、アクティブラーニングなど、学生の興味を引き付けた授業が多かった証左といえる。

設問Ⅱ　保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について

5 項目全体に関して 1･2 年生ともに何れの項目も「そう思う」、「ややそう思う」の合計は 1 年生が 89.5%から 94.8%となっているが、2 年生は 87.8%から 94.7%となっており、いずれも高い数字を示している。

5 項目のうち例年の傾向として「保育、教育、福祉」に関する成り立ち、制度、理念に関する項目が他項目と比較して数値が低い。しかし今年度は 1 年生 94.8%、2 年生 92.9%と 1 年生 2 年生ともに高評価を挙げており、例年とは異なる傾向を見せている。次年度への期待が持てる。

また、5 項目の教育目標に基づく学修成果は何れも必要不可欠ではあるが、とりわけ、保育者としての「素養」に関しての項目である「保育者･教育者の自覚をもち、知識、教養を深め人間的な成長を高めていく」項目については 1 年生で 89.5%、保育現場に着任しようとする直前の 2 年生が 94.7%と「そう思う」、「ややそう思う」の合計が 5 項目の中で最も高い。次年度以降も各教員はさらにその数値を高める努力を学修成果のみならず、学生指導全般から見直して向上させていくように取り組んでいかねばならない。

設問Ⅲ　授業への取り組みについて

授業への取り組みの結果は 1･2 年生共に昨年に引き続いて今年度も各項目によって共通する項目と差異が認められる項目があった。まず 1･2 年生が一致して高い数値を示したのは「欠席しないように心がけた」である。「そう思う」、「ややそう思う」の合計は、1 年生は 89.5%、2 年生は 87.7%と高い数値となっている。特に 1 年生は 4 月当初の新入生ガイダンス時より出席することの重要性を繰り返し説明してきたため、その認識が強く印象づけられたためと考えられる。2 年生も欠席が重なれば「失格」に繋がる意識が十分に認知されていたのではないかと思われる。

「勉学環境について積極的に発言した」は、1 年生は 73.7%、2 年生は 77.2%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答した。「居眠りや私語をせず授業に集中した」との設問には、1 年生は 94.7%、2 年生は 79%が「そう思う」と「ややそう思う」と回答している。例年の傾向ではあるが 2 年生が低く出ていることが気になる。

さらに「予習･復習への取り組み」について、1 年生は、73.7%、2 年生は 76.7%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答した。「解らないことは積極的に質問した」について、「そう思う」「ややそう思う」が、1 年生 79%、2 年生 72%であった。これらから、授業には 90%近い学生が欠席せずに出席しようとするが、授業に積極的に関わる姿勢は両学年とも乏しく 70%台にとどまっていることがうかがえる。次年度への改善に向けて全教員が一丸となり取り組むべき課題である。

設問Ⅳ　学修成果について

1･2 年生とも学習成果に関してすべての項目で高い数字を示している。5 項目全てが「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて 89.5%以上となっている。

「報恩感謝」については、1 年生は 94.8%、2 年生は 93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。建学の精神である「報恩感謝」が 1 年間（2 年間）の学修課程過程のなかで醸成され、意識化されたことは教員や学生自身が授業中だけでなく、学生生活全般を通じての地道な努力が結実したといえる。「教養や知性」に関しては、1 年生は 100%、2 年生では 93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。2 年生のほうが厳しく評価しているようである。「自主的積極的に取り組む」に関しては、1 年生 89.5%、2 年生は 89.5%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。1，2 年生ともにそれぞれの学年で実習、2 年生は就職活動など、自力で乗り越えた経験が自信につながり高評価に至ったと思われる。「専門的能力（資格含む）」に関しては、1 年生は 94.7%、2 年生は 91.3%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。1 年生では幼児体育指導者 2 級などを受験して資格取得を目指したが、2 年生でも多様な資格にチャレンジした姿が数字に繋がっている。「社会人力（コミュニケーション力、マナー）」については、1 年生は 94.7%、2 年生は 92.9%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、2 学年ともに 90%を超えている。コミュニケーション能力やマナーなどに関しては積み重ねであり、学内での働きかけと同時に、実習や対外的な活動の経験が成長につながったのではないかと推察する。

以上、今年度は設問ⅠからⅣのすべてにおいて、2 学年ともに 90%以上かそれに近い数字を示した。唯一、授業の取り組みでの「積極的」な姿勢が 70%台である。主体的に学ぶ姿勢を育む仕掛けを各授業で工夫することが次年度以降の課題である。

2025 年度　授業についての満足度調査

ライフデザイン総合学科調査結果コメント　（学科長：中川玲子）

設問項目I　ライフデザイン総合学科のエリアについて

ライフデザイン総合学科には 7 つのエリア（専門科目群）があり、学生は自由にどのエリアからも授業科目を選択して受講できる。各エリアには、授業を通して取得できる資格や称号があり、支援講座となっている科目もある。学生は期初の教務ガイダンスを受け、エリアとその学びへの興味、将来の進路とも照合して受講科目を選択し履修登録を行う。

2025 年度エリアについての学生の満足度は、学年で特徴的な傾向を示した。「授業を受けることで就職や就職活動に役立つエリア」として 1 年生は 1 位 医療事務エリア（40.5%）、2 位 IT エリア（35.1%）、2 年生は 1 位 ビジネスエリア（37.8%）、2 位 医療事務エリア（32.4%）であった。また、「授業を受けることで資格の獲得につながったエリア」は両学年ともＩＴエリアが 1 位（78.4%、35.1%）であった。その他「授業内容がわかりやすかったエリア」、「授業の内容に達成感や満足感を感じたエリア」、「授業を受けることで学習への興味・関心が広がったエリア」、「主体的に学習に取り組むことができたエリア」について、1 年生は何れも IT エリア、2 年生は何れも医療事務エリアと回答した学生が最も多かった。このように、1 年生は IT エリア、2 年生は医療事務エリアで満足度が高いという学年で特徴的な傾向を示した。

例年とは異なる学年で特徴的なエリア選択の傾向について、今後も注視していく。

設問項目II　ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）について

「社会で活躍できる基礎的知識や教養・礼儀を身につけている」について、そう思う、ややそう思う、の合計が 1 年生は 97.2%、2 年生は 86.5%であった。「各エリアの専門的な学びを通して・・・」の以下の 3 つの質問、「社会で活躍できる知識・技能を身につけている」、「社会において自ら課題を発見し解決に取り組み成果を表現するための思考力・判断力・表現力を身につけている」、「社会において他者を認め、積極的にコミュニケーションを図り、連携するための主体性・多様性・協働性を身につけている」について、そう思う、ややそう思う、の合計が 1 年生は 80.6%から 83.3%であったのに対し、2 年生は 91.8，91.9%と高い満足度を示した。

特に 1 年生は「基礎的知識や教養・礼儀」についての学習成果ではそう思うが 50.0%であり、1 年間の学びで半数の学生が自信をもって評価していることがうかがえる。各エリアの専門的な学びを通しての学修成果、および生涯を通してライフデザイン（人生設計）を描き続ける能力については、2 年生がそう思う、ややそう思う、の合計が、全て 90%を超える高い満足度を示し、専門エリアの学びから社会で活躍できる知識、技能の獲得への満足度が 2 年間で高まり、一定の評価を受けたものと思われる。

なお、１年生の「生涯を通して向上心と探求心を持ち、自己のライフデザイン（人生設計）を描き続ける能力を身につけている」の項目は、そう思う、ややそう思う、の合計が 69.4%と例年より低い評価であり、残りの 1 年間で高まることを期待したい。

設問項目III　あなた自身の授業への取り組みについて

１、２年生とも同じような回答の傾向であった。「授業に欠席しないように心がけた」はそう思う、ややそう思う、を合わせて１年生 88.9%、2 年生 75.7%であった。「積極的に質問した」１年生 52.8%、２年生 70.2%、「授業中私語せず集中した」１年生 83.3%、２年 64.8%、「勉学環境について積極的に発言した」１年生 44.4%、２年生 59.4%、「予習復習課題には積極的に取り組んだ」１年生 69.4%、２年生 64.8%、いずれもそう思う、ややそう思う、の合計の数字である。

1 年生の「積極的に質問した」、1・2 年生の「勉学環境について積極的に発言した」の数字が低いので、入学時から積極的な質問や発言がしやすい環境を整え、教員からも促すよう取り組むことが必要と思われる。

また 1・2 年生の「予習復習課題には積極的に取り組んだ」が 70%に届かない結果であり、今後、学年を問わず、積極的な予習復習を促す仕組みと、シラバスに記載した予習復習の実行チェックを機能させることが必要である。

設問項目IV　あなたは本学での２（１）年間における学修成果について

そう思う、ややそう思うという積極的回答についてみてみると、「報恩感謝の思いを持つことができた」の項目は、１年生が 82.4%、２年生が 83.8%、「教養や知性が身についた」の項目では、１年生が 94.1%、２年生が 89.2%であった。また、「自主的積極的に取り組めるようになった」が、１年生で 76.5%、２年生で 78.4%となっている。

「専門的知識（資格含む）が身についた」の項目では、１年生が 88.2%、２年生が 89.2%となっている。１年生、２年生ともに資格取得を達成できた様子がうかがえ、学科として掲げている資格取得の成果が数字として表れている。

「社会人力が身につき人間的に成長できた」については、１年生が 85.3%、２年生が 89.2%であった。

このように学修成果が示されたことは大変喜ばしい。今後も各質問項目の満足度を維持、向上させるように努めていく。